

令和５年度 学校評価報告書（小・中学校用）

学 校 名	袖ヶ浦市立平川中学校	記載責任者名（職・氏名）	校 長 宮野 達也 公印
-------	------------	--------------	---------------------------

【自 己 評 価】（Ａ）十分達成できた（Ｂ）ほぼ達成できた（Ｃ）あまり達成できていない（Ｄ）達成できていない
【学校関係者評価】（Ａ）妥当である（Ｂ）ほぼ妥当である（Ｃ）妥当であるとは思わない

【１】学習指導について

評 価 項 目		評価	自己評定説明欄	評価	学校関係者評価委員より
1	知的好奇心をかき立てる授業を展開している。	A	「授業の導入で興味・関心を高め、内容の深化、定着を図る」ことを目指して職員全員で取り組んできた。指導室訪問を活かして興味関心を高める発問の工夫について研鑽を積むことが出来た。また、電子黒板、GIGAタブレット等で興味関心を高める導入が出来ている。	A	学校関係者評価委員より ・生徒の得意なところを見つけ個性を伸ばすことが大事だと思います。ぜひよろしくお願いします。(太田敬一評議員) ・研究授業を参観したとき、生徒たちと教師の人間関係がとても良いと感じた。人間関係の良さは授業への参加意欲を高めていくので、ぜひ続けて欲しい。また学校でなければできないことをぜひ進めていって欲しい。(深井明評議員) ・生徒、保護者とも肯定的な意見(回答)が多い中、課題を明らかにしながら取り組ませている。自己評価は厳しめだが妥当と捉えています。とりわけ生徒アンケートの学習に取り組む姿勢の評価が高いことが素晴らしいです。(多賀克之評議員) ・様々な方面から個々にあった支援を行っているように感じます。今後も学力、体力とともに、生徒に向き合った個性を生かせる体制を望みます。(高野圭介評議員) ・生徒と職員の感じ方の違いが多少あり、その溝を埋めていく作業が今後必要だと感じました。(橋爪亜佐美評議員) ・新型コロナウイルス感染症流行前の様にはまだなっておりませんが、少しずつ戻ってきている様子です。もう少し地域住民との交流が出来るようになる、もう少し地域に愛される中学校になるのではないかと思います。(橋爪亜佐美評議員) ・学習に関しては、課題を出して家庭学習を意識づけた方が効果的かと思います。(宗政俊洋評議員)
2	基礎的・基本的内容の確実な定着を図っている。	A	毎時の学習課題を明確にし、本時に何を学ぶか明確化を心がけた。その上で教科や学年で小テスト、ドリル学習等、繰り返し学習する機会を設けている。中でも数学科や英語科の授業では、市のT2教員が個々の理解度に応じて対応し、定着を図った。GIGAタブレットの活用により、課題提出、アンケート、小刻みな評価に活かすことができた。		
3	生活記録ノートを有効に活用させ、自学の習慣を身につけさせる。	B	学年ごとに家庭学習ノートを作り、日々の家庭学習の習慣化を図った。また家庭学習の定着を図っていくため定期テストごとの学習時間調査や、学級担任による生活記録ノートによる働きかけを行った。生活記録ノートの活用により、生徒の生活の様子もつかめ家庭学習の意識付けを行った。		
4	「学びの基本」を身につけさせている。 (返事・学習態度)	A	朝読書を継続している。「平川中の10の約束」を意識させて生徒会を中心に取り組んでいるため生徒も意識をし、始めの挨拶から発表、授業展開がたいへん落ち着いている。授業中の取組については95%の生徒が学習に集中して取り組んでいると回答している。今後も、引き続き学習態度の徹底を図りたい。		
5	豊かな表現力を育てている。 (豊かな感性・自己表現力)	B	生徒会を中心に、生徒達で持ち物や学校内の決まりを話し合わせ、意見をまとめる自治の力をつけさせてきた。授業や学級活動で自分の意見をノートやGIGAタブレットにまとめ、共有することで、表現力を培っている。思考・表現する力は全体として課題が残る。授業でのグループ学習や作文等で表現する場を仕組みながら育成を図っている。		
6	体験学習を通して学ぶ力を身につけさせている。	B	校外学習や自然体験学習、修学旅行等では事前学習を行ったことで班別行動や飯ごう炊さんにおいて充実した活動が出来た。体育祭や合唱祭においても準備段階から当日から事後の学級での係活動において、協力する大切さや、仲間のことを考えることができた。		
7	学習形態の工夫をした授業を展開している。 (個と小集団、教え合い学習)	B	ペアやグループ・教科による座席の工夫や教え合い、意見交換をする場面を意図的に多く取り入れた。教え合いを繰り返し、訓練することで自然にできるようになってきており学習意欲を喚起される生徒もあり、効果を上げている。		
8	一人ひとりの生徒の教育ニーズに対応した教育を行っている。 (特別支援教育の校内体制)	B	特別支援教育コーディネーターを中心に、特別に支援を要する生徒に対する個別の支援策を講じてきた。また福祉教育として楨の実特別支援学校との交流やあすチャレジュニアアカデミーのパラアスリートによる授業、地域の人材による道徳授業、県の認知症サポーター養成講座等、共生社会の達成に向けた取り組みを学ぶことが出来た。		

【２】生徒指導について

評 価 項 目		評価	自己評定説明欄	評価	学校関係者評価委員より
1	思いやりのある生徒集団を育成している。 (いじめ撲滅・実践的な道徳教育)	A	いじめ撲滅運動、教科化された道徳において人間関係づくりや互いを認めあう良い人間関係に努めた。今後もさらに道徳科の授業や生徒会の取り組み等で生徒の心の醸成を図っていく。	A	学校関係者評価委員より ・いじめに関してはアンケート結果を鵜呑みにせず、しっかりと子どもたちを見守っていった欲しいと思います。(橋爪亜佐美評議員) ・挨拶は基本なのでそれが出来ていることは大変良いと思います。(太田敬一評議員) ・挨拶がマンネリ化しないように進めていって欲しい。(深井明評議員) ・挨拶が出来ている年は地域からの評判も良く、学校と生徒が一丸となつているイメージがあると思います。(高野圭介評議員) ・生徒は挨拶をとても意識していると思う。(宗政俊洋評議員)
2	明るい挨拶の響きわたる学校となっている。 (いつでもどこでも、誰にでも)	B	生徒会活動の一つとして取り組み、外部からの声でもよく挨拶をしてくれるという声があるが、職員・保護者のアンケートでは不十分であるという意見がある。人間関係づくりの基本として今後も挨拶の響く学校づくりを目指したい。まずは職員からという意識を徹底させていきたい。		
3	「課題」への挑みに向けて努力している。 (長欠減少・服装、頭髮違反ゼロ)	B	今年度の課題の長欠問題に関しては、職員（全体・学年・学級）は個々の置かれた状況を詳細に把握し、状況に応じ、関係機関との連携や個別対応を図りながら取り組んでいる。来年度も引き続き、情報・指導の共通理解をし、臨んでいく。		
4	生徒は、学校行事・対外行事に全力で取り組んでいる。 (目標への挑み・全力の取組・チームワーク)	A	生徒が全面に出て、企画・運営をすることに重点を置いたことで本来の学校生活を取り戻しつつある。その結果、取り組む中で仲間を支え合い助け合う気持ち、目標達成のためお互いを高めあい全力で取り組んでいる姿が見られ、成実感が各行事の感想から伺えた。		

【 3 】 保 健 ・ 安 全 管 理 に つ い て

評 価 項 目		評 価	自 己 評 定 説 明 欄	評 価	学 校 関 係 者 評 価 委 員 より
1	常に清新で美しい学校（学級）環境を創造している。（心和む、季節感ある環境）	A	掲示物の作成等、教室環境を生徒とともに創り上げ、常に教室の整理整頓を心がけさせている。また、各学期、各行事ごとの感想や決意を書かせ、教師からのコメントを入れるなど環境を通して心の育成を図っている。また、校舎内、そして校舎周りの環境美化にも力を入れ、高木剪定や花壇の整備など、目に触れる部分の美化にも力を入れている。	A	学校関係者評価委員より ・交通安全、生活安全、災害安全は大切です。継続して取り組んでいって欲しいと思います。（多賀克之評議員） ・校内美化に関してはPTAの貢献度も高いです。よくやっているといます。（橋爪亜佐美評議員） ・部活動を通しての人間関係形成はどうでしょうか。（高野圭介評議員）
2	自他の生命を尊重する安全意識の高揚を図っている。 （安全登下校・生活安全の徹底・判断力）	B	4月に交通安全集会を実施した。また生徒会主催により毎週月曜日に自転車点検を行っている。あわせて教師による登下校時の巡回指導など、継続した指導を行っている。生徒の安全に関する意識は高いものがあるが、それが実際の行動には結びついていない場合もある。時折、自転車の乗り方について、注意の電話をいただくこともあった。命を守る視点から、継続して交通安全に関する実践的態度の育成に努めていく。		
3	生徒は、清掃体育に熱心に取り組んでいる。	B	別紙生徒用の学校生活アンケートNo1の（10）のグラフからも分かるように全体として体育・清掃活動ともに多くの生徒が意欲的に取り組んでいる。一方、清掃体育について見直しが必要という意見もある。清掃活動の意義を確認し、取り組み方や分担、職員の配置を工夫し、生徒の意欲の維持に取り組むことが大切である。		

【 4 】 そ の 他 に つ い て

評 価 項 目		評 価	自 己 評 定 説 明 欄	評 価	学 校 関 係 者 評 価 委 員 より
1	教師と生徒と保護者の感動の共有ができて いる。（汗と涙と感動の一体感）	A	行事や部活動を通じて「感動こそ生きる力」「ふるさと平川」を目指し、教師が生徒とともに活動し、充実した取組になるよう努力している。コロナ禍の5類移行により、本来の学校行事が実施され、保護者のアンケートには89%、生徒のアンケートからは94%の肯定的意見が見られた。	A	学校関係者評価委員より ・先生方、生徒、保護者の関係性が良いことは大切だと思います。これからもよい関係を続けて頂ければと思います。（太田敬一評議員） ・家庭との連携を。多方向の情報。行動連携は大切です。これからも工夫をお願いします。（多賀克之評議員） ・体育祭を通じて一体感を感じ、中学生らしい姿を見ることが出来、感動の共有が出来ていると感じます。（高野圭介評議員）
2	道徳教育を推進できたか。（教科・道徳の時間等教育活動全般を通して）	B	「特別な教科 道徳」については昨年度に引き続き校内研修で講師を招聘し、授業の展開方法や生徒の心の変容をつかむ方法等を学んだ。また、学年内で展開方法の確認など準備を入念に行った。今後も教員の道徳の授業に対するスキルを高め、力量を高めていく取組を行う。		
3	学級・学年集団づくり、縦割り活動が充実 している。（目標達成意識・組織での活動）	B	常に目標を持たせ取り組ませている。体育祭や合唱祭などの行事では、先輩が率先して行う姿や、その後ろ姿で後輩が見習う姿が多く見られた。生徒会活動や部活動などでも上級生が下級生へ良き手本を示し、学校全体の集団意識の向上に貢献している。		

【 5 】 次 年 度 の 重 点 課 題 と 具 体 的 対 応 策 に つ い て

次 年 度 の 重 点 課 題		具 体 的 な 対 応 策 等	学 校 関 係 者 評 価 委 員 より
1	○学力の向上 ・知識技能のさらなる定着 ・思考能力の向上・コミュニケーション能力、表現力の育成 ・情報読み取りや読解力の向上 ・家庭学習の充実	・ICT機器を通して、授業は、興味・関心を引き出すことから始まる意識スキルを教師が持つ。（生徒1人1台のタブレットPCの活用） ・生徒同士教え合い、議論できる授業の工夫改善を図る。 ・各教科の年間計画の情報読み取りに関する学習内容を意識的に取り組ませる。 ・家庭学習ノートの継続	・学力向上は最大の課題です。今後とも授業の工夫を頑張って欲しいと思います。（多賀克之評議員） ・積極的なタブレットPCの活用をぜひお願いします。（宗政俊洋評議員） ・個の学力を高めるための、集団での高め合い。つまり多様の考え方の融通から学びを進めていって欲しい。（深井明評議員）
2	○自治的活動の推進 ・学校が楽しいと感じる生徒を引き続き90%以上を目指す。 ・いじめゼロを目指す。	・生徒会本部を中心とした自治活動の活発化を図る。 ・QUテストを生かした学級、学年集団づくり、生徒観察を行う。（アンケート後の分析と有効活用を目指す） ・些細な生徒の変化も見逃すことなくアンテナを高くし、積極的な生徒へのアプローチを継続させていく。	・生徒の自主性を重んじている取り組みはたいへん良いと思います。（太田敬一評議員） ・生徒と先生方の良い関係性がとても伝わってきました。行事等を通じ、今後も良い学校づくりに努めて欲しいです。（高野圭介評議員）
3	○健康・安全意識の高揚 ・感染予防対策を含む健康に関する意識を高める。 ・登下校の交通事故をゼロにする。 ・危険予知、回避能力を高める。 （日常安全・生活安全）	・各感染症の予防、熱中症対策に生徒一人ひとりが意識を高く持ち、健康維持に努められるようにする。 ・引き続き外部機関との連携を図り、命に関わることに ついては、繰り返し、集会等で意識の向上を図る。 ・日常の交通指導、自転車の乗車マナーの向上を図る。 ・常に先にある危険を回避するために、予知をし、準備をする意識づけを行う。（自然災害等）	・危険に対する日頃の心がけは大切に続けて欲しいと思います。（太田敬一評議員） ・
4	○心とからだの育成 ・「挨拶・礼儀・態度 全国No.1」といえる生徒が90%以上を目指す。 ・清掃時体育の充実。 ・道徳科の時間を軸とした道徳教育を充実させ、学級、学年、全校での実践を進める。	・生徒会活動によりリーダー指導を進め、生徒が前面で活躍する場を多く設定し、リーダー、フォロワーの育成を目指す。 ・生徒会活動を通じて、ボランティアやSDGSの理念に結びつく取り組みを行う。 ・日常的に道徳的価値感に気づかせ、深化、行動化を図れるよう、道徳科の時間を充実させる。	・成長過程における体力作りの重点に注ぐ目標があったも良いのではないかと思います。（高野圭介評議員）